

## 編集後記

世にいわゆる情報は溢れかえっていると言われますが、いざ自分が何かを書こうとして資料探しをすると中々これといったものに遭遇いたしません。より正確に申せば探し方にもよるのですが、雑多な玉石混合の論著の中から適合したものを選びすぐることが中々に難儀なのです。いかにささやかな論文であっても、目的・方法・結果・結論・考察がほどよく整っていることが望めます。多くのタイムリーな論文を読破したうえで自らの経験から独自の結論と考察を導き出せれば、目標は達成されましょう。文献検索の重要性は申すまでもありませんが、文献の海に溺れてしまっただけでは本末転倒となります。編集委員としてまたは読者として同胞の論文を読ませていただく時に、よく感じるものの一つに引用文献があります。著者にもよりますが、引用される文献は圧倒的に英語文献が多いのです。これには種々の理由があるのだと思います。①対象とする研究や考察が日本にないか少ない、②あるのだが探し出しにくい、③英語文献がPCで容易に検索でき、しかも、抄録ならほとんど全部が（会員や購読者でなくとも）無料で読める、などが主因だと想像します。

『医学中央雑誌』は、わが国最大級の医学文献情報のデータベースできわめて有用なのですが、有料でありかなり値が張ります。個人レベルでは、なかなか負担しきれません。本誌『日本透析医学会雑誌（日透医誌）』はどうでしょうか。本誌は現時点で年3回の発刊ですが、2004年の19巻1号から目次だけがPC経由で閲覧できるようになり、2007年の22巻3号からは目次に加えて本文が読めるようになりました。印刷も可能です。ただし、会員のみの特典です。どの雑誌の発刊にも経費がかかるために、会員や購読者にある種の特典を与えることは当然なこととして許されましようが、力作や労作が並ぶ本誌がもっともっと多くの関係者に読んでもらえるようになるような工夫を強く望むのです。『日本透析医学会雑誌』が原著を主体とするものであるのに対して、本誌は良質の collective reviews と、医療・透析の進む道への考察が毎号に掲載されていて特徴を出していると感じております。皆さんがよく読まれる N Engl J Med, Lancet, JAMA, AJKD, CJASN, KI, ASAIO Journal 等々は非会員・非購読者でも最低限その抄録を読むことができ助かります。日本の商業誌も次第にPCでのアプローチが可能となりできることが多くなってきていますが、未だしの感があります。N Engl J Medなどは遡ること1812年から論文を読めることには驚くしかありません。

本誌に論著をお寄せ下さる執筆者に対しては、本文や図表だけではなく引用文献にもお心配りをしていただきたいことを密やかに願い、読者諸氏には是非とも読後感をお寄せ下さるように願いたい次第です。書き手と読み手の真摯なやり取りが、QOJ (Quality of Journal) を高めると信じております。

本号に読みがいのある論文をお寄せ下さった執筆者諸氏に心より感謝の意を表し、読者諸氏の感想を期待しております。

広報委員 大平整爾